大豆ニュース　No.4
～病害虫対策･雑草対策～

令和　6年　8月　29日
巻農業普及指導センター

1　生育調査結果(調査日8月26日曇り)

調査地点		主茎長(cm)	葉数(L)	一次分枝数(本/㎡)	播種日	開花期	確認されたカメムシ類
里のほほえみ							
中之口	河間	81	13.6	26.5	6月5日	7月26日頃	
岩室	高畑	71	14.6	43.5	5月31日	7月22日頃	ホソハリカメムシ、イチモンジカメムシ
西川	西汰上	56	12.6	40.0	6月12日	7月30日頃	イチモンジカメムシ
平均		**69**	**13.6**	**36.7**	**6月5日**	**7月26日頃**	
(参考)播種90日後指標値		69	－	55.0			
エンレイ							
潟東	茨島(麦跡)	42	10.2	32.6	6月18日	8月2日頃	
西川	槇島	44	11.2	25.1	6月17日	7月31日頃	ホソハリカメムシ、イチモンジカメムシ
平均		**43**	**10.7**	**28.9**	**6月17日**	**8月1日頃**	
(参考)播種90日後指標値		59	－	44.0			
平均(5調査地点)		**59**	**12.4**	**33.5**	**6月10日**	**7月28日頃**	
平年値		63	12.2	39.0	6月8日	7月24日頃	

- ○ 平年に比べて主茎長はやや短く、葉数は並、一次分枝数は少なくなっています。
- ○ 梅雨明け(8/1)以降､降雨は少ないものの､干ばつ害の発生は少ない(一部砂質ほ場で発生あり)。
- ○ 大豆カメムシ類は3地点で、食葉性鱗翅目幼虫による葉の食害が各地で確認されました。
  葉焼病は里のほほえみで少発生が確認されました。
- ○ 基幹防除(紫斑病及び子実害虫(マメシンクイガ、カメムシ類))が8月第5半旬頃から実施されています。

2　病害虫防除　～発生状況によっては追加防除の検討を～

防除薬剤や時期については、7月30日付け「大豆ニュース No3」に記載してます。
(巻農業普及指導センターのホームページからご覧になれます)

(1)カメムシ類　(子実の吸汁害)

- ○ <u>1回目防除後7日以降に、多く確認されるほ場は追加防除</u>を検討しましょう。
- ○ 加害が激しい場合は子実への養分転流が進まないため、茎葉がいつまでも緑色のまま落葉せず、青立ち状態となります。

(2)ハスモンヨトウ(幼虫による葉の食害)

- ○ 8月中旬頃から幼虫の加害が確認されていますので、今後の突発的な増加に警戒してください。
  ※特に令和5年多発生した地域は要注意
- ○ 幼虫が大きくなると薬効が低下するので、幼虫が分散する前に防除しましょう。
  ※令和5年の防除適期は8月下旬頃でした。

農薬使用の際は、農薬容器や包装ラベル等に記載の登録内容(使用量･希釈倍率、使用時期、使用回数や注意事項)を確認のうえ厳守し、農薬使用者は責任をもって適正に使用してください。
薬剤が周辺ほ場に飛散しないよう散布してください。

3　雑草対策　～汚粒の発生防止～

- 汚粒の発生原因となる雑草や青立ち株は、収穫前までに必ず抜き取り、ほ場外へ持ち出しましょう。
- 特に、ヨウシュヤマゴボウ、イヌホオズキは、収穫物に果実汁が付着すると検査対象外となるので、必ず抜き取りましょう。
- 青立ち株が多発生した圃場は、正常に成熟した圃場と刈り分けて収穫しましょう。

ヨウシュヤマゴボウ（赤色）

イヌホオズキ（紫色）

青立ち株（右の株）

目標収量180kg/10a、3等級以上比率70%を目指し、
一つ一つの管理対策を確実に実践しましょう！